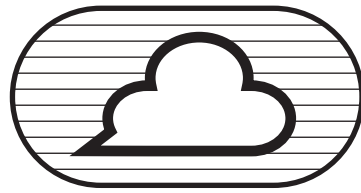


需要増も恩恵はドリンクへ

麦茶（リーフ）



くもり

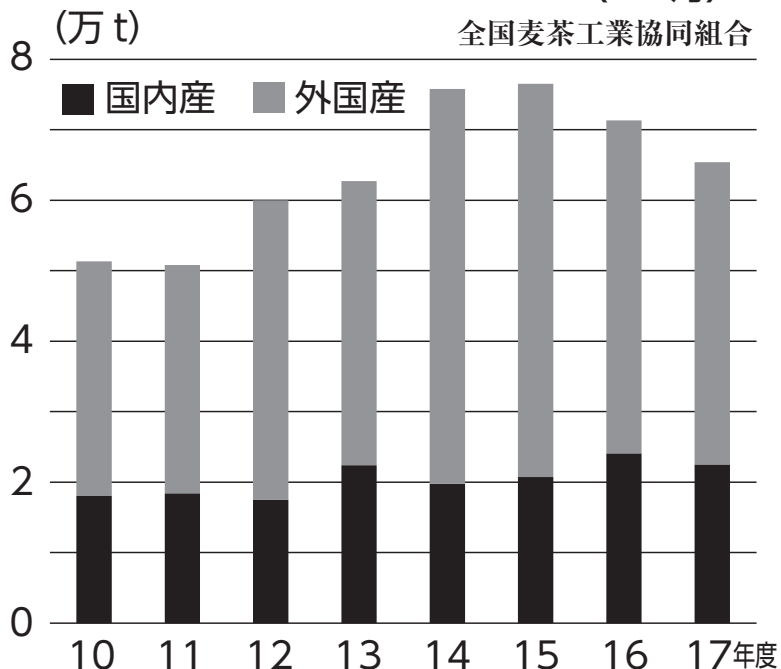
一方で、リーフタイプは横ばいが続く。需要増加の恩恵はすべてドリンクタイプに流れている形だ。夏の天候頼みと体力勝負から脱却すべく、付加価値品や独自アイテムに軸足を移す動

簡便で経済性にも優れるティーバッグ麦茶は、いまやシーズンを問わず50P入りで店頭売価200円未満が当たり前。低価格品が市場の主流となっている。PETボトルの麦茶飲料はここ数年市場が堅調に拡大する

きもある。先が見通しづらい環境ながら、活性化に向けた動きは着実に進んでいる。利益体質への転換が急務だ。

麦茶用原料玄麦の販売実績

(4-3月)



17年度の外麦減少分にはカナダ産の買付回数変更の影響含む
実質ほぼ前年並み